

柏崎刈羽に溶接不備

7号機でも74カ所見つかる

東京電力柏崎刈羽原発6、7号機(新潟県)

の消火設備の配管で溶接工事に不備があると匿名の申告があった問題で東電は24日、7号機でも74カ所の溶接工事で不備があったと発表しました。7月の発表では、6号機の消火設備の配管で30カ所の溶接工事不備が見つ

つたと発表し、調査を継続していました。

匿名の申告は今年3月。一部の下請けの施工会社が担当した6、7号機の消火設備の配管で、酸化を防止するためにガスを流しながら行う溶接施工がされていらないという内容です。これを受け東電は元請け会社に調査を指

示しています。元請け会社の調査で

7号機の消火設備の配管の溶接を施工した会社は6社。申告があった施工会社が担当した溶接箇所は1220カ所。うち194カ所で配管の内面をファイバースコープで調査したところ、74カ所で不備が見つかりました。

同じ施工会社の溶接士らに聞き取り調査も

実施。「(配管内に)ガスを流さずに実施した」「ガスを流さず、流したふりをしていた」

との証言があったほか、施工記録の虚偽記載があったといえます。また、申告があった施工会社以外の3社が

担当した317カ所で発注の仕様通りの溶接工事がされていないこともわかりました。

調査を踏まえ、申告のあった施工会社が担当した1220カ所と、他の3社の317カ所の溶接箇所を再施工するとしています。